



# 岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

## 国定教科書使用実態の研究： 明治・大正期地方教育界と国定教科書

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2008-02-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 梶山, 雅史 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12099/40">http://hdl.handle.net/20.500.12099/40</a>

## は し が き

この報告書は、科学研究費補助金による研究「国定教科書使用実態の研究－明治・大正期地方教育界と国定教科書－」（一般研究C 平成5～6年度）の成果として、『岐阜大学教育学部研究報告＝人文科学＝』に発表した三論文を合冊収録したものである。

研究の推進上、対象・方法において研究モデルを構築することが有効であり、まず岐阜県における事例研究のとりまとめを先行させることとした。

論文（一）では、岐阜県における文部省著作教科書への転換経緯について、基本的な事実関係の解明に努め、県の通達、告示類の内容、発布時期、さらに国定化前後各段階における岐阜県使用教科書の具体名を明らかにした。岐阜県が行政上、国定教科書への切り替えを完了させたのは、明治39年（1906）であったこと、さらに県の教育行政担当者の文部省著作教科書への対応、基本姿勢の特質を明らかにした。

論文（二）では、明治37年（1904）段階、武儀郡教育会、加茂郡教育会、羽島郡教育会、益田郡教育会、武芸郡教育会等の動きに照明をあて、教授細目の編成、実地授業と批評会の設定状況、さらに日露開戦を迎えて、戦時教育を説く教育会雑誌の論調ならびに戦時教材編纂に取り組み始めた地方教育会の動向に考察を加えた。

論文（三）では、明治38年（1905）4月から国定国語教科書の全学年使用となり、教員組織による教科書研究・授業研究が推進され始めた様相、郡視学会議の動向、さらに教育会雑誌にあらわれた教科書論議について考察を加えた。国定教科書使用準備が教育会単位で取り組まれ、拠点校の有力教員達に担われて新国定教科書へのマニュアルが作成されていく経緯を明らかにした。

本研究において調査、収集した資料群は膨大なものとなった。今回、論文文化しえた所はその一部である。今後、さらに研究成果を順次発表したいと考えている。

研究組織 研究代表者 梶山雅史（岐阜大学教育学部教授）  
研究分担者 なし